

# 秋行事、花ざかり

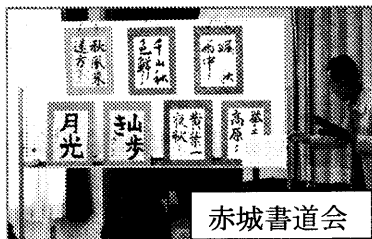
## ステージ発表は気持ちいい～!

### 町内の文化団体発表会 ～11月8日(土) 荒牧町公民館～

荒牧町公民館を利用して活動している6つの文化団体が一同に集い、日頃の練習の成果をステージで発表し合いました。少し緊張もみえましたが、ステージを楽しむかのように、のびのびと気持ちよさそうに発表していました。荒牧町にはこんなにすてきな文化団体があるんですねえ～。これを機会に、さらに町内に文化の輪が広がるといいですね。



荒牧民謡クラブ



赤城書道会



寿カラオケ愛好会



荒牧カラオケ愛好会



チェリーポルカ荒牧



ともしびコーラス

荒牧町だより

第149号  
荒牧町自治会  
広報委員会

## 荒牧町の遼くん、藍ちゃんはだあれ?

～長寿会グランドゴルフ大会10月19日～



頑張ってください

絶好の秋晴れの下、この大会は記念すべき第1回の大会になります。早朝より、身支度も勇ましく80人あまりが集まって、大会が始まりました。

「ああ～打ちすぎだ! 距離感がだめだねえ～」

「行けえ～、曲がれえ～、はいれえ～!」

「ホールインワン? まぐれまぐれですよ。」

「練習してる人より、練習してねえ人の方がうまいんだから、やんなっちゃうよ～」

などと、長寿会とはいえ、闘志まんまん。でも、

「アメなめて、がんばりましょう!」

「このチームは女の人に助けられてるよ～」

などと、和やかにゲームを楽しんでいきました。

さてさて、誰がゴルフの遼くん、藍ちゃんになったのでしょうか?



## 中荒牧と荒牧団地のマス釣り大会

～10月19日(日)9時～、敷島公園の池～

この日は、中荒牧と団地とが隣り合わせで大会を開きました。当日は、風もなく穏やかな晴天に恵まれ、親子、家族連れが多数参加しました。

最初の10分間は、子どもたち優先で行われ、その後は、大人たちも釣り糸を垂らし、釣りが始まりました。

歓声と笑い声と感動が絶えず、初めて釣り竿を手にしたお子さん、釣った魚が持てないお子さんが、大きな声で、おじいさん、お父さん、お母さんと呼ぶ声が聞こえ、竿に糸が絡まってしまったお子さん、釣ったマスが針を飲み込んでしまっていて困っている子、マスのエラから血が出て大騒ぎをしているお子さん等、大変にぎやかな一日でした。

興奮と喜びの中で無事、有意義に終わることができました。参加されました皆様、大変お疲れ様でした。

(中荒地区代表)



つれた～



引いてる!



いっぱい釣りますよ～

## これからの町内イベント

- |           |         |        |
|-----------|---------|--------|
| 11月19日(水) | ふれあい食事会 | 荒牧町公民館 |
| 11月23日(日) | 廃品回収    | 中央公園   |
| 12月5日(金)  | 初詣実施委員会 | 荒牧町公民館 |
| 12月10日(水) | いきいきサロン | 荒牧町公民館 |
| 12月13日(土) | クリスマス会  | 子ども育成会 |

# 上宿下宿地区 三世代交流ゲートボール大会

立冬をむかえ、冬の到来を感じる中、今年も恒例の「上・下宿地区三世代交流ゲートボール大会」が開催されました。8チーム（40名）によるトーナメント方式でゲームが行われ、珍プレー好プレーが続出する中、諸先輩方に助けられた別所チームが栄冠を勝ち取りました。

ゲーム終了後は、公民館にて和やかに懇親会が催され、最後は「木遣歌」で閉め、終了しました。

今後、親睦の機会を図るため、世代を越えた大勢の参加者が集まりますように願っています。（柳澤）



懇親を深めましょう

# 老人福祉ゲートボール大会

～10月25日（土）、荒牧中央公園～

この大会は自治会主催の老人福祉事業として、毎年行われています。

当日も、雲一つない秋晴れの下、5人ひと組のチームを作って始まりました。なごやかな中にも、初心者の方の慎重な構え、リーダーの適切な指示、審判の凛々しい姿など、随所に真剣さも漂い、スポーツの秋を存分楽しむことができました。



ここに球を置いてね



優勝チームの皆さん

## 荒牧まちかど探検・34

### 荒牧町公民館所蔵の野帳に見る記録名

荒牧町公民館には、明治時代初期に記録された貴重な野帳（のちよう）が、大切に保存されている。

この野帳は、江戸時代に確立した農民に対する年貢（田畑に掛かる租税）の徴税の検地のものである。

昭和54年に柏書房より発行された「古文書参考図録」には「...検地は縄入、竿入ともいわれ、各農民の一筆毎の田畑を測量し、その結果得た石高を集計し、村単位の総地積・総石高を調べる土地調査である。」

検地には居検地、廻検地、地押（反別のみを測量して、従来の検地の適否を調査する）などの種類があり、その実行には任命された検地奉行が統括し、村役人により検地条目にもとづいて実施された「...」と記されている。

この結果作成されるのが検地帳であり、野帳は言わばこの検地帳を作成させるメモ帳的なものであった。

しかし、荒牧町所有の野帳をみると、単なるメモ帳とは懸け離れた精密なものである。

先ず記入方法は一筆毎の区画を毛筆で図示し、多い場合には40以上の髪の毛ほどの細かい線で分けられ、その区分の一つ一つに、これまた虫眼鏡でないとよく見えないほどの「イロハニホ...」が記入されており、その記入たるや驚嘆の一言に尽きる。

所有者名の入った田や畑が圧倒的に多いのは勿論であるが、現在の荒牧町には全く見かけない地目が驚くほど多種にわたって記入されている。この中で、特に目を引いたのが、下宿の項に見



られる「元郷倉敷」である。この郷倉は天明の大飢饉の後、各村に有事に備える貯穀用の共同穀倉であった。街の先輩の話では、そうした倉があつたらしい程度に伝わっているが、このような記録が残っているので、実際に存在したことが判る。



上宿に「高札場」が設置されていたという記録がある。高札場は所謂御触書を伝える場所で、人の往来も住民で賑わった場所に置かれたと推察され、上宿の繁栄ぶりが窺える。

現在その多くが荒牧神社に合祀されている、天神社・八幡社・八幡社（所有地）・薬師堂・伊勢社・庚申塔などが村内のあちこちに記録されている。

また一際目を引くのが、日輪寺の寺領地が非常に多い。日輪寺の格式の高さのあらわれではなかったかと推測できる。



最後になるが、林・竹林・芝地・荒地・水車用水路・石置場・桑原等が記録されている。以前は殆どの家でみられたが姿を消し、区画整理以降全く目にしなくなつた。

しかし、昔を偲ぶこれらの名残がかつて何処にあったのだろうかと思いをよせて旧沼田街道を歩くのも一興であろうか。